

即身成仏

こんにちは、斎藤友蔵と申します。

本日は、即身成仏についてお話をさせていただきます。弘法大師空海は、即身成仏を提唱しました。即身成仏とは、いま生きているわが命が、そのまま仏さまになる、といった意味です。

仏教の究極はお釈迦の悟りを目指していますが、そのアプローチで分けをすると、密教と、顕教の2つに大きく別れます。

顕れる教えと書く顕教^{けんぎょう}は、経典の研究や、言葉の理解を重視しました。

それに対して、密教は、教典では解けない「秘密の教え」があり、それは頭ではなく宇宙の命の根源たる「大日如来」からダイレクトに体得しよう！と訴えたのです。

顕教がかかげる、〇〇をすれば死んで浄土や涅槃に行けます、または輪廻転生します、というスローガンに対して、平安時代初期に日本仏教界に改革をもたらした密教、真言宗の開祖の空海は、『来世ではなく現世で生身の人間が成仏できる！生きているわが命がそのまま仏さまになる』と説きました。

生きて仏になれます、覚れます。それがホントの幸せでしょう、と。

当時はとてつもなく画期的な理論で、議論をよび、異端と言われました。

お釈迦さまが説かれた、生・老・病・死は常理であり、私たち生まれてきた者には絶対に避けられないものです。生・死があるから、諸行無常・愛別離苦が生じるのであるから、自身が仏さまになることによって、生死を乗り越え他者を救うことが出来るのではないかというのです。

空海は、次のように言っています。少し長くなりますが、現代的に言いますと、

「誰でも、自身が現世での生と死に伴う苦から逃れて、安らかな覚りに行き着きたい望む人がおれば、まず物質的な福と精神的な智と両方の功德を積んで初めて覚りの境地に到達することが出来る。

物質的な功德と精神的な功德のうち、まず精神的な功德を積むとは、経典を写経し、その深い意味を聞き、その内容を理解することである。

一方、他人に施しをする行為を始めようとする六波羅蜜の浄行を日常生活の中で実践することは、物質的な功德を身につける原因となる。

このように福と智、二つながらの功德を積み、日常生活の中で受けている目に見える、

または目に見えぬ諸々の恩に報じ、いろいろな人の手助けをするならば、その人は自己の利益と他人の利益をともに積み重ねたことになり、その結果、仏の完全な知恵を身につけることが出来る。その知恵が菩提と言われ、これら福智を具えた行動を実践したものが覚った者であり、過去世や現世で受けたもろもろのご恩に報いる者である。

在家の人々も生死苦から逃れ、安らかな覚りの境地に至りつく方法である」

そして、身密、口密、意密、という、大切な修行の教え「三密」があります。三は、漢数字の三、密は、空海が唐から伝えた密教の密を指します。

身密、の身は身体の身、で、からだや行動を整える。

口密、の口は顔の口、で、言葉や発言を正しいものにする。

意密、の意は意識の意、で、こころ・考えを整える

からだや行動・身、を整え、言葉や発言・口、を正しいものとすれば、おのずと心や考え・意、も整う。修行を重ね、三密を研ぎ澄ませば、この世であっても仏様のように心穏やかに過ごせる、即身成仏・生きたまま仏になることができる、という教えです。

駆け足での説明でしたが、いかがでしたか。

即身成仏に興味のある方は、真言宗のお寺の門をたたいてみて下さい。